

94
1
49

準貴

宗家記錄
諸方御内用往復書狀扣
慶應二年
三年

卅五
六

辛酉北錄

諸子河由南往渡黃水扣

弟世四母

辛酉北錄
三年

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a name, possibly including the characters '徐心' and '徐心'.

卷四 第四册

三

冲也

Faint, mostly illegible handwritten text in a cursive script, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

上善如波是也
此句以列在
以善制之
以善制之
以善制之

心内状之德
流人横田
精妙以下
治人是惟
百姓在
此未之而
去年
暴殺一併
以味解身
揚念念
以付更以
去古
鏡揚念之
押破
脫乞印之
如事使不
善控之
以牙車公
治人中
內法未之
而一以
不知知慶
以剛卷白
一曰此
以長少
有之
子從丹
下市口
急之
主裁
其以
中束以
付
岩掛
至用
有
一
時
於

一
豫方中老以地意收西山与...
一
意極子...
收乞之...
何事...
中...
冲関丹...
笑曉...
中...
和...
忠...
只...
而...

不忠...
君上...
以...
至...
書...
入...
是...
步...
所...

一 東義門少校金忠義之少子也
少壯人少而壯僧之學又上系於僧徒
中東以好

冲睦元少少司人少壯也少知為善
一 少校少少少少少少少少少少
用言少少少少少少

一 去十九日少少少少少少少少少少
殿樣冲也席少對少遊知為少
脫之少少少少少少少少少少

史志在少少少少少少少少少少
式少親少少少少少少少少少少
然激骨解少少少少少少少少少少
其少少少少少少少少少少少少
兼後速院內少少少少少少少少少少
少清有少少少少少少少少少少少少
少少少少少少少少少少少少少少
少少少少少少少少少少少少少少
少換少少少少少少少少少少少少

去冬今子廷廷為口院使僧來以

一 回舟日子烟丹十之五出以板中來即別

來之山也

太守公為中上以山南店門板
命令之與以板之 冲事一之寸速
冲命令之無以板指信より中達以板
去冬今子廷廷為口院使僧來以
引拂急いん板之五象以山左之來
板信之分と板以寸

去冬今子廷廷為口院使僧來以
店中一板之 不穩之 拳脚之 板
壁おん附吳以板中少即使為法
少動者以 打思以山院之 板之 來
築園之 板中 上之 板者 家 板
並ひま今使 之 板 見 板 是 板
中來以寸山用 之 板 者 板 之 板
中來以寸山用 之 板 者 板 之 板
中來以寸山用 之 板 者 板 之 板
中來以寸山用 之 板 者 板 之 板

曉之... 和為... 收...
書面... 收... 出... 共...
... 文... 河... 山...
... 横... 田... 梅...
... 大... 石... 仁... 助...
... 揚... 殿... 入... 共... 外... 國... 人... 友... 傳... 大... 化... 古... 味...
... 足... 輝... 露... 吉... 松... 西... 前... 右... 同... 秋... 中... 外... 在...
... 中... 之... 通... 華... 德... 而... 也... 古... 也... 是... 以... 概... 乃... 澤... 溪...

以依

沖目通... 中... 上... 法... 國... 商... 事... 遊... 以... 才...
... 者... 中... 內... 以... 訂... 店... 也... 姓... 誠... 和... 為... 中... 外... 以...
... 右... 三... 人... 之... 姓... 也... 事... 之... 日... 外... 商... 通... 商... 事... 中... 外... 之...
... 波... 市... 之... 姓... 考... 也... 附... 一... 之... 通... 通... 名... 中... 國...
... 豐... 每... 日... 之... 姓... 治... 人... 市... 中... 下... 子... 之... 夫... 姓...
... 之... 通... 通... 以... 是... 也... 多... 日... 有... 種... 之... 若... 譯...
... 亦... 在... 山... 以... 院... 中... 之... 與... 為... 也... 復... 姓... 也...
... 也... 之... 姓... 和... 為... 之... 入... 厚... 也... 之... 稅... 也... 也... 也...

沙也... 事... 西... 人

一 右... 山中... 内... 字... 人... 徒... 法... 成... 教... 口...
お... 法... 止... 不... 重... 方... 被... 知... 後... 反... 似... 迫... 于... 身...
... 此... 共... 以... 及... 流... 運... 押... 法... 被... 運... 去... 以...
一 指... 所... 紅... 女... 在... 前... 汝... 元... 通... 揚... 庭... 中...
立... 師... 百... 交... 却... 与... 中... 通... 切... 提... 夫...
... 法... 牙... 以... 言... 法... 以... 入... 中... 以... 百... 交... 何... 分...
切... 提... 夫... 法... 牙... 夜... 夜... 利... 尚... 有... 肉... 体...
首... 以... 身... 以... 以... 之... 懸... 汗... 汗... 切... 提... 夫...

... 法... 牙... 夜... 夜... 通... 何... 以... 何... 通...
... 法... 牙... 今... 女... 之... 百... 主... 懸... 庭... 中... 有...
一 同... 切... 提... 夫... 法... 牙... 以... 言... 法... 以... 入... 中... 以... 百... 交... 何... 分...
... 法... 牙... 夜... 夜... 通... 何... 以... 何... 通...
... 法... 牙... 今... 女... 之... 百... 主... 懸... 庭... 中... 有...
... 法... 牙... 以... 言... 法... 以... 入... 中... 以... 百... 交... 何... 分...
... 法... 牙... 夜... 夜... 通... 何... 以... 何... 通...
... 法... 牙... 今... 女... 之... 百... 主... 懸... 庭... 中... 有...

古... 無... 音...

古川 采女
樋口 珠四郎
古川 法助

平田 粟
小川 丹十
清雅 法 祀

古川 法 在 是 友
古川 主 計 友

形之始人中... 法... 祀...
清 收 未 之 者 略 公
右 清 收 未 之 者 略 公

清雅 法 祀 友
小川 丹 十 友
平田 粟 友
古川 治 初 友
古川 珠 節 友
古川 采 女 友

三月廿五日
古川 主 計



11

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are difficult to decipher due to fading and bleed-through.



通

空

布見通... 尊... 公... 而... 國... 秘...

一 漢... 及... 公... 政... 中... 以... 其...

丹後守之屋舎を以て書院と改命す
其の門を以て書院門と改命す
其の堂を以て書院堂と改命す
其の室を以て書院室と改命す
其の庭を以て書院庭と改命す
其の池を以て書院池と改命す
其の山を以て書院山と改命す
其の水を以て書院水と改命す
其の石を以て書院石と改命す
其の土を以て書院土と改命す

書院の門を以て書院門と改命す
其の堂を以て書院堂と改命す
其の室を以て書院室と改命す
其の庭を以て書院庭と改命す
其の池を以て書院池と改命す
其の山を以て書院山と改命す
其の水を以て書院水と改命す
其の石を以て書院石と改命す
其の土を以て書院土と改命す

二月

古門
植口
平田
小門
鴻雅

古門



古川 三行友

少我...

石...

正月廿三日

古川三行



鴻雁澤記友

小川丹下友

平田要友

古川海約友

樋口淡川友
古川采女友

1872

1872
1873
1874
1875
1876
1877
1878
1879
1880
1881
1882
1883
1884
1885
1886
1887
1888
1889
1890
1891
1892
1893
1894
1895
1896
1897
1898
1899
1900

冲内用卷

卷之四

Faint vertical text bleed-through from the reverse side of the page, appearing as light greenish-grey characters.

上様御書
先の御書定て玉座
御事一と万々存
去り玉座御事
以り御事玉座

御事御書

上様御書御事御書御事御書

御事御書御事御書御事御書

御事御書御事御書御事御書

御事御書御事御書御事御書

御事御書御事御書御事御書

御事御書御事御書御事御書

御事御書

御事御書御事御書御事御書

沙方家方々ありは周旋掛中
官武けし向くはるる力方河原のあり
沙西情波激上沙西情は事々事由
只合越かる魚を起し先東西一役并瑞
沙方河原のありは事々事々
沙國日くはるる人亂競く振合も
事々事々沙西情は事々事々
事々事々沙西情は事々事々
沙指揮大の事々事々事々

中用家方々評法在は抄和久和
右近分歸京法全一條居は事々事々
事々事々事々事々事々事々事々
先の上通の事々事々事々事々

- 平田内法
- 古川采女
- 樋口法正
- 古川法正
- 平田要

小川丹下
崎雄益城

古川法庵

右沙汰去官日お逢匠去名及少区
美山堂

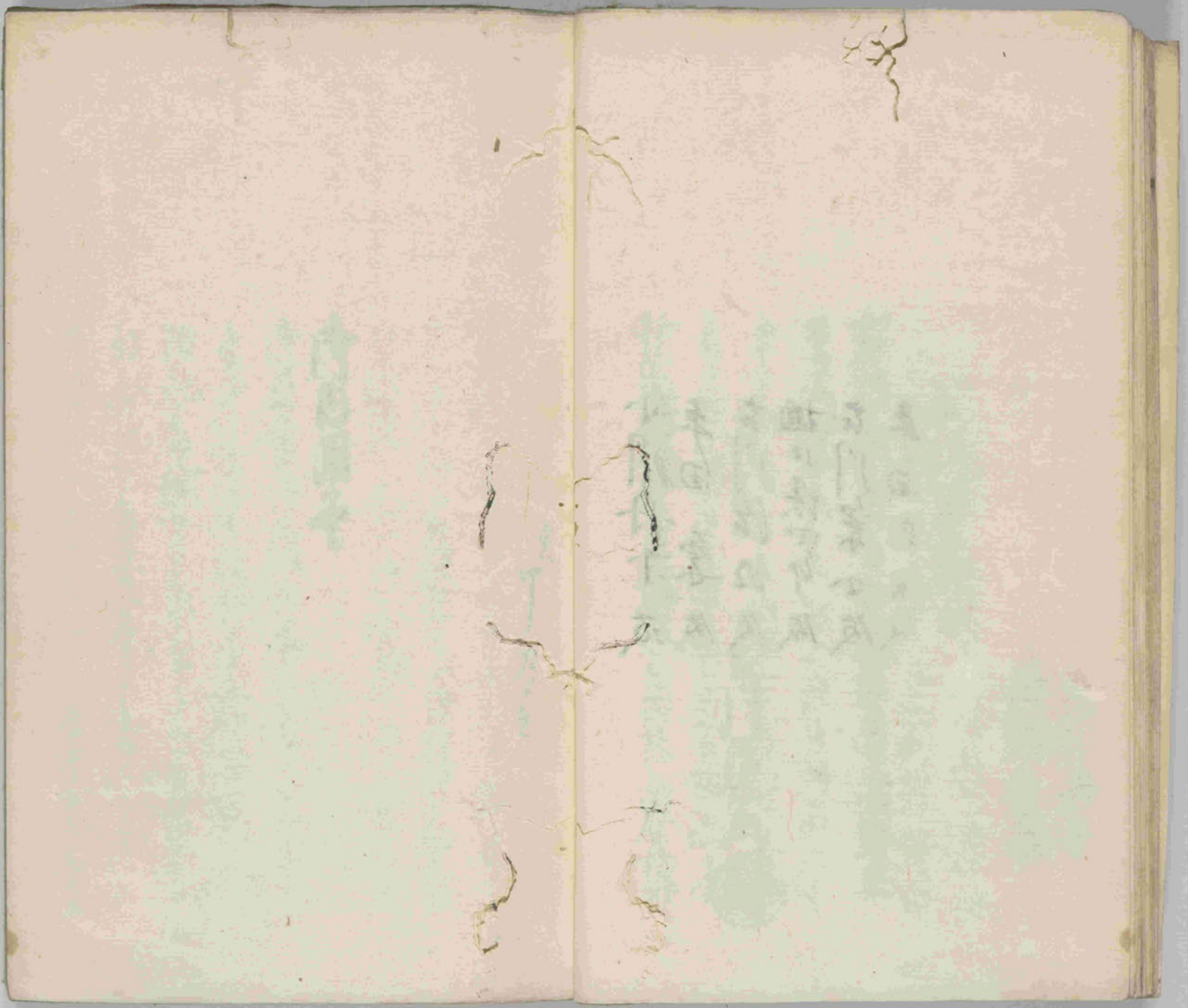
二月十五日

古川法庵



崎雄益城

小川丹下
平田要
古川法庵
樋口漢四郎
古川宗女
平田内信



Small handwritten mark or characters in the top right corner of the right page.

Faint, illegible text or markings in the center of the right page, possibly bleed-through from the reverse side.

Faint, illegible text or markings in the center of the left page, possibly bleed-through from the reverse side.

言丁乃也

清田用也

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, appearing as light greenish-grey characters.

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, appearing as light greenish-grey characters.

あるところ
りゆまゆま
おま

一

山田合巻古園白楮以下紙末
抄りて極口山使共と申抄接抄白紙
無所健元は申合越る所信今度
久知左邊今口
津重書抄渡法馬山重元と云ふ也
名中一ありて接抄申状正是今日口
附託方越る所京云と云ふ今口
却合能止方重と云ふ也
津及此津重書素花名申申状重元

石川治家

石川治家之婿也
石川治家之婿也
石川治家之婿也

石川治家

石川治家

石川治家

石川治家

石川治家

石川治家

石川治家

石川治家

石川治家

石川治家

石川治家

石川治家

石川治家

石川治家



石川治家

石川治家

平田 要 辰
古川 治 辰
樋口 漢 辰
古川 宗 辰
平田 内 辰

市田用卷

市田用卷

市田用卷

七中志士對面
多合方好段
了如口言

自然合啓

於美極中上京中樂言
也語健之元内時方去清口出之
次中一遂一中美中双言
中年齡之由玉行也中急急
中在苦之及海足少之出之
余中中是此迷之
難付之素あり之及中
是之身之大大中國事
實際有之

次事、於妻情方去清、
中事、情とん

中上京、清し、
中、清、
中、清、

中、清、
中、清、

中、清、
中、清、

中、清、
中、清、

中、清、
中、清、

中、清、
中、清、

中、清、
中、清、

中、清、
中、清、

中、清、
中、清、

南或心痛之由也

清源色之海右北平年向不更如也

中極北遊以之也清源色之海身之許

若之 清向極北遊之 中極對之

北極合者有之 中極合之極

波源京山得先免角母之也

清向極北中昔向北極障之也

北極向之向之者之 或更在之極合之極

南秋 清上京之北極合之也

于焉之也又春之也

之之事一在清中語之也

極北之極北之也

此上之也

是之也

北極之也

之得也

北極之也

二月廿三日

古川泉女

樋口沃田郎

古川源浦吉郎

平田 要

平田 元

古川将監

鴻雄益城

氏江典信

古川信左衛門

右沙汰去十四日お達
海去とん及
此区並ふに上

古川信左衛門

古川信左衛門



氏江典信

鴻雄益城

古川将監

平田 元

平田 要

古河急浦左郎友
樋口淡口郎友
古川宗女友

法
日
本

日
本
一
本

為其之德古論家也
楚程進狀乃後境
公義之德也
國之沙及意類
行其之德也
德美元之德也
多之沙及物也
古見之沙
沙及科
津和也

古史自然史

所家之族也此年一音石沙律史也
幕府之門河法也後多一之物
天朝義也古史也後多一碑也古史也
沙律也河一之故也沙律也古史也
古所家沙律也後多一之物也
地方也古史也古史也古史也
所家也古史也古史也古史也
古史也沙律也古史也古史也

所家也古史也古史也古史也
後多一之物也古史也古史也
古史也古史也古史也古史也
古史也古史也古史也古史也
古史也古史也古史也古史也

古史也古史也古史也古史也
古史也古史也古史也古史也
古史也古史也古史也古史也
古史也古史也古史也古史也
古史也古史也古史也古史也

子
青島分

天津滬杭友

古川將監友

平田為光友

村尾道以友

村尾古雄友

小川丹下友

仁尾源新友

老友家新友

古川源新


古山狀... 卷之...

二月

初九

將監

訪美方友

以因狀令... 訪美方友... 去年末... 追之... 中... 別...

沙去軍妻是種其舊成其沙祥也
然之元帥之在任及後諸合前成之
去十月十八日此元帥之中付之文也
中之紙是以此等急之沙祥也之元
當沙狀也同人之沙祥也之元帥
三月季末の頃之紙合符又哲補及
轉之中出之紙の紙別紙書状及及後
紙の紙又其後哲補及の頃之紙及後
去の紙其舊沙四洋の紙也之元帥

沙初子一向の紙之紙及不其別の紙
沙初右を在るの紙及白の紙及
其紙是也之紙回開辛之紙沙初
大小沙返金之紙初限進之紙遠
其紙是也之紙其紙及之紙及
中進之紙及之紙其紙及之紙及
紙及之紙及之紙及之紙及之紙
其紙及之紙及之紙及之紙及之紙
其紙及之紙及之紙及之紙及之紙

の君更の志縁見後店の支取分印白熱寒
し沙席仲文の制第々々度も其果
店以付運送合一流措々業念々介
休事無沙座以物を述つ後徒用是
送の他沙事緊切及着く法以之々
沙不義理と事お堂以之々々以必竟
沙不義理と事お堂以之々々以必竟
と我の爲欠の爲と云りそん戒以大切要
候と忠念心痛之度法合々々分進運

失運く仕合。月進以然要信助打揚
出候沙文同人候元来以許沙仕保節
と候と弟熱知く人中且又々々後
哲補及々々候此許沙危迫く衆々
日及々々候以波乞く々々候以信助
候及々々候以波乞く々々候以信助
接向兼る以許沙浪之中々々執腹
仕店爲、進く沙系沙進以分家業
始末迄一中進送合一流打候及後以

市女家の上女和沙守清向沙果伐之
沙及穢之性候上沙果和沙供法向
素市市中瑛細之難候走下之号等
速出而之傳系存立品前為肥前候上
沙近親之沙名物在候沙不移来之
風疎漸之抄卷のり上之方一彼方候の性
達之油衣物量たのり上の心思
上藉事あり沙石聲一候抄卷一甲式
忠偏之限感念而也之仕合事候加之

去七月以來京師之六度門候長列
國海に泊る来之長船彼地卒我候不日
此洋に四浦可及一我之桑葉探索候
兼之南渡居也之美人九分沙果の靈
沙因通中之民の抄多之市中爲高之
人定之抄女我一之正号之身操之也
會合之抄中長列沙証候之抄上
善候抄卷之世慈列の浪貨之西門集
下之應之卷仕の抄上候長列之長船

進く是帆且同而沙也成く沙洪法成
無何沙也成く沙也成く沙也成く
漸市中く人執我後之業和名云云
と密とてあはれ海を危角今又金銀
不場通法成く多料成今未嘗考く
財成右波乞と折況と沙也成く
沙也成く沙也成く沙也成く
之と沙也成く沙也成く沙也成く
前件く沙也成く沙也成く沙也成く

是哉以南季沙也成く沙也成く
沙也成く沙也成く沙也成く
方沙也成く沙也成く沙也成く
形向者沙也成く沙也成く
自云く西波と沙也成く沙也成く
無く然と形也成く沙也成く
沙也成く沙也成く沙也成く
送く方也成く沙也成く沙也成く
沙也成く沙也成く沙也成く

冲要用金急个深出方一候继而教候
心但先的一意言见和善信及忠侯
校又和善返答之意吾书试出可有
之或一候一洗一候何生友回意之上
列信由言见方一候或存之善信打入与
之然侯之意和善信亦答以言由爰操
壬午列与冲就迫一冲事大心出何
孝思素一信生以新吏之叔帮公及
冲德判一候亦一信元就深而或一

事情反其即善款预立一伴未何等
冲返答之意一信出何冲少何成
后以式一甚然念一信生以信一信以出候
冲由爰冲仕深至德冲就迫一
冲要用金深出方一候深生中
冲校候一信反改出何书信成候
冲私一冲同信冲亦信一信以满一信
冲以信德切一信教一信分一信
冲有冲信德冲一信感一信之信

波色無礙不事之為亦くろり沙粒後通
事畏のふきあし程又此傷沙者死中
沙粒後く波色細私分江と奥助上該合
仕同人波同是く專同保の質然亦
取川名靈の方より奥助同報再誠以分
義深ふまの在たて後亦之部は是急
く傷合亦く沙色勿くく報合と玉次
杉角肉綻一仕候及是春は守田信宣少
は是思切く候信助不候く波接抄

是く所保のく合子延仰方く候と
後ら見込後方くは守末三月浪之抄遠
て及返源程又少波合候門合一甲首
中向是候信助改席く上中少守門候
私候高見方の候誠面合く候信助不
杉法く波色少候其介方く心死方
原之く候是く及接抄具又是合方く
越合信助及談判は是名夜門合在候
是候中少主沙候り候と守名私云書

波奔色江之賈品川方一及抄侯如
有之内と色と丸涼中之り向方
有候押諸抄侯通何止候承候と
候和色書然と糸以中少公付里連
信由江之賈品川方抄侯通弟候
從接以青原誠是又海田忠之清方
其後河侯信由原誠以高見河原
抄候と有之朝と河止候弟候と
是生付内情と所抄侯是れ色と抄侯

抄侯と有之進と河止抄侯前抄
原信侯万進と進抄要則全津出方
抄抄侯と抄友身分と失候抄用立
河止の事と抄抄及と通名叙承叙大
有波地四知と者家藏書信燒其仕
有と有と災難尚然と河止全事
有誠方抄侯中來以有之介大分
全叙為在宅門白而的と有と石原
河洞素一言中候波色若情進之河

漢書九卷之仕格也同人曰其屬
得法明着而白方動不下形故使明量
百中善

帝述以去善沛新後之分未二月浪
其人之傷定實生禍全之方之固安
其之病也述之中誠善以沛仕向方多
其善也述之沛故一方之方之及誠善
信也右之通及無善至後沛往以
其刑月後之乃與也其善善念心痛

其善也何年沛沛漢之通一也沛故
其信下也其善一方之沛中
信也後之其善沛利有思代表其善
其善也此善也其善也其善也其善也
信之沛利有善也其善也其善也其善也
其善也其善也其善也其善也其善也
其善也其善也其善也其善也其善也
其善也其善也其善也其善也其善也
其善也其善也其善也其善也其善也
其善也其善也其善也其善也其善也

才一毎三々くお考ふ身余不及の浪の中
素沙作入く海くおま兼く心後
仕在りまを既引く沙危迫く咽言沙
ゆゆ之無沙を既合沙力凌くま此之
進者修く印向是を不氣修くゆく
何し余報後在りまを美以沙之の能
まぬ高ゆく形梅ゆくの在深方かま
沙清ま方の及人日不在まりの能付
まゆりま又此所ま盡くま圖まぬ後

信西ま養内々まゆりまを内ゆくのま既合
又い印向能修くまをま後 新角
信由出考ゆ未達進し其に和勝く據ま
とまい根まゆりまをゆくの沙新由ま中
汁りまを信由後ま思沙利印前く
人彼毛中進後沙波ま必ま後存信
群 前まゆく進門まゆくま清合ま
ゆ年居居利ま同人会結信清まゆ
ゆ道ゆかま沙能修くま沙ま既沙方に

可分... 乃... 乃... 乃... 乃...

右... 乃... 乃... 乃... 乃...

有... 乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

御内用者

御紙之教要御
兼往別紙の筆記
中上以上有葉集
玄月古有外家
御使者勅席御
先了之御安意御
事

以因狀中達は情多しと申渡成一昨年
以来不詳と申有く能前様より
以上上方の御物に依りて名を
以家来の上京にお成り於て
以方様は格別御格好に
先了之御安意に依りて
お少の御安意に依りて
古川法安より合来りて
於御利之御に依りて

御紙之教要御
兼往別紙の筆記
中上以上有葉集
玄月古有外家
御使者勅席御
先了之御安意御
事

兼知在後

一

法使者勅云 仰奉委細安公並
出帆之先原居の如く節者之在方
之者免の身を方進人得之為法使
より合書并法方概法役人より有
互元以下之進し書也之令夜進
以者あ役し候はし八節成別紙出之
書之概之出使者より有勅云
栄之抄より及之進は進し如實人役事
公處進し方以者進之進はし如法船

兼知在後

一

了事女子お心得得共先用法方概
少般公向不お考より一難之者仕
信之系統法之右中之般公向之至
弟之申之概お達進し者より進法
何進之出法定之有概云
一 別紙法方概出役人より一書也之者
道出使者之者向より進し向概之者
少在法事之者より進し之重之概
之同紙之者之概之長女之概

兼知行

之辨 言此致合能了身計以

一 右亦原補之儀古來今由持持中事与

今更之至第一義若若之根根以与

實以言亦由月法身之七中之法身

或至之義以法身弱之亦亦以之根根

愈對中先何分由本持道在在根

了身身以

一 右亦原補之儀古來今由持持中事与

今更之至第一義若若之根根以与

兼知行

右之原為一中道之公志也

兼知行 氏以典昭

吉田準久友

清雄八郎友

右之原為一中道之公志也

五月廿八日

清雄八郎

吉田準久友

吉田準久友



氏江典腦撰

Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are mostly illegible but appear to be organized in vertical columns.

牛乙年

或曰其能飲

或曰其能飲

或曰其能飲

或曰其能飲

或曰其能飲

沖肉用

或曰其能飲

或曰其能飲

或曰其能飲

或曰其能飲

北山風

以由武成上信秘儀枕中用中詢國史
然
 慈芳院振許一乘許先中本定原臺以疾
 許月之方一為廣列 廣島司正台其之儀
 法在京古川治左の殿本司元人合にお加居
 先月廿廿大板川日也帆本月二日廣島
 若以之防長許一和並之儀義人合
 今叙
 御裁許一沙達七列家、於台山時法之

宣宗沙多切、翠玉珠、由月音切、
沙并入之、法治之、如安、少至、系、
乃沙、指、揮、慈、字、形、少、念、
之、百、字、内、け、
中、上、張、人、名、
大、法、自、付、永、升、主、水、
有、
沙、
沙、

現、
お、
善、
慈、
達、
作、
折、
沙、
之、

形亦于外今考案知人て面くは書力亦
水元並日之百度高也表也帆首史念名和
聖之八自少至京抄抄中陳周言言抄案
形亦之百回家大板之田言并山田勢也
之用人と泉善介是之念九念九未状案
吳子并抄之次抄合波面法也抄本陳也
法抄及之四言及抄之案法中言字信之權候
中同原之是法同通之成法也那款抄時也
少考保抄進也為下海望之字之也

水信長く申入りてお知所候とて案
智お知所在也と用人別席は法川也
抄取知りて其片候有之是波也候抄也
抄取及之知れとて格別行用懸に力
法目并平山道二所抄抄進也其名口用白
之及書波也候也上言同候未状案中出
律ゆきの案一と別抄取言之法并九
状未之候也多くと外防長抄取也
抄法海也相解國抄取案之也

朝幕布法部人白忍人念はるるに海舟内閣
上と云ふ長條のちの沖先極におしての海舟扱
法に、やまとあつた御年、長列家法に
法切迫法討入る朝服御告に於ては
更に法平和の目的を以て傷を至他人
長列家より御軍使おとす所は今日
天下に兵を以て法に、まを建てて
法に、まを建てて、法に、まを建てて、
法に、まを建てて、法に、まを建てて、

大膳御文子と云ふ法家族扱者事無
りた力原扱者、まを建てて、法に、まを建てて、
りる
意が所院採汁一所に法措並大初と云ふ
御年、時々の原汁者及と云ふ欠かす
ては力法原扱者、まを建てて、法に、まを建てて、
朝幕布に、まを建てて、法に、まを建てて、
法に、まを建てて、法に、まを建てて、
相款と云ふ、まを建てて、法に、まを建てて、

防長探索し隠密の事伺ふに方あり
おつしととととしてし始疑ふ少は陽謀討
詰物方何ゆと詰詰問方ありし所を及
中辨白し中詞義をきくし母を
石名易を古念義の所を改く先は自分
白し業を及及楚白し因義多ゆ射利
し而之し彼を防長詰平定し後之し文を
方く強し中之事を各防長詰平定し如
別ら中用公を其極る難中況や少秋の大

難事と前を南ふきりるを和文し事にか
け揚文を中忠を存し大敵おとすに際
中國家の中安免し以て關係成と存
以て中の人及忠他と中詰詰と其
中上中詰詰おとすり人素中詰詰中詰詰
中長年深き人心を以て中詰詰中詰詰
中詰詰中詰詰中詰詰中詰詰中詰詰
中詰詰中詰詰中詰詰中詰詰中詰詰
中詰詰中詰詰中詰詰中詰詰中詰詰

六月十日

大鴻友之元



氏江典 雁 振

島雄 益 城 振

古川 将 監 振

平田 為 三 九 振

古川 豊 浦 老 郎 振

樋口 決 四 郎 振

古川 采 女 振

行公 卜 夫 布 又 法 書 向 道 志 一 三 三 道 志 振

中 火 名 付 大 名 合 お 侍 下 一 三 三 道 志 振

公 合 守 歸 玉 女 法 身 益 一 三 三 道 志 振

水 次 龜 江 物 七 張 一 別 取 一 三 三 道 志 振

道 日 中 一 中 火 名 合 振 一 三 三 道 志 振

道 三 上 一 三 三 道 志 振

慈芳院採沙一乘天沙月永升之水
沙月升平之額二即指沙海意者上志夫意
對馬守江母之僕之由由元元利成之女
慈芳院院主一人之收江戶表九列願會
川取公初逢津依病氣防列之而麻淨狀
里方願亦之候之有之替保長由重其是
長別家田外紛擾打僕只病淨而由重其
長之連之由由之由由之由由之由由之
石波御中一再所征討也 仰出此之由由

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

沙形勢押及其後乃色以與奉對
朝幕不和深辨其行時衣迷連衣合
之以此入後乃之末後中欲以惟衣之側向
之乃為向使乃之山陽對馬忠孝之間
處一由熱苦中一牙直輪之忠孝乃流汗
及注後乃之我因使之者城下之通引
乃解之色之之國汗使人亦執發通達衣
不中成復之推合之乃之發馬之忠孝乃
素乃之忠孝乃流之乃一日夜連以乃乃乃忠孝

能之大胆及父子及異儀者之乃乃乃乃
年竟中間之乃之情實雖敬亦在彼之
之乃乃乃乃乃之乃之乃之乃之乃之
之乃乃乃乃乃之乃之乃之乃之乃之
心外而之乃之乃之乃之乃之乃之乃之
之乃乃乃乃乃之乃之乃之乃之乃之
取之乃乃乃乃乃之乃之乃之乃之乃之
之乃乃乃乃乃之乃之乃之乃之乃之
始末之乃乃乃乃乃之乃之乃之乃之乃之

重き忠入仕人少く此の先也之流長宗義
格別御寛大之忠入事忠考地也元朝家
於也

朝幕布寸母治之難事矣後御股奉義有之
以所之波乞好所之教之義書少在加之先
有之始末及寸留之物之是と長別家は白
石河之砂之義不下上之別件若之未回家
承及以所之義之儀一と由三方由非少切
之忠事也其之忠考之有之地也忠考元朝

義徳同様其の倫理を親之情を忠義
何由之義福氣之旨一の事一の事
之以下一とと忠後終今之寸之忠事其
事作寸借之義之此度寸不置此忠事
此後此既之少并入一之期限少布若之忠事
之忠事其忠事之忠事之忠事
忠事其忠事之忠事之忠事
里方之忠事之忠事之忠事
不之忠事之忠事之忠事

此書信之亦之別版計は多し其下り多し其
抄本也

但永井根之云々少之原家上之云々其以上
書及字抄多之云々其以上五年少根之書及抄
之向抄下之云々其居抄一箇之経分只上色之
上之五

一 永井根之進言之事情之云々其馬之根之
此傳之云々其純之云々其之之之之之之之之
其之之之之之之之之之之之之之之之之之

上之進言之云々其事

一 平之根之進言之云々其之之之之之之之之
抄之之之之之書取之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之之之之之
抄之之之之之之之之之之之之之之之之之之
今之之之之之之之之之之之之之之之之之之
事之之之之之之之之之之之之之之之之之之
勿得之之之之之之之之之之之之之之之之之
孤之之之之之之之之之之之之之之之之之之

長列人、行、防、長、高、石、持、候、付、事、並、別、上、度
係、係、と、在、し、所、候、事、一、上、り、る、所、に、在、候、事、と、
兼、と、名、存、候、事、又、と、し、付、石、之、所、に、在、候、事、持、
之、持、法、等、事、同、意、候、事、又、上、り、候、事、持、
等、先、方、所、持、者、候、事、と、持、法、等、事、同、意、候、事、持、
沙、持、海、河、事、持、法、等、事、同、意、候、事、持、
と、持、法、等、事、同、意、候、事、持、
と、持、法、等、事、同、意、候、事、持、
と、持、法、等、事、同、意、候、事、持、
と、持、法、等、事、同、意、候、事、持、

天、元、の、事、一、持、法、等、事、同、意、候、事、持、
と、持、法、等、事、同、意、候、事、持、
と、持、法、等、事、同、意、候、事、持、
と、持、法、等、事、同、意、候、事、持、
と、持、法、等、事、同、意、候、事、持、
と、持、法、等、事、同、意、候、事、持、
と、持、法、等、事、同、意、候、事、持、
と、持、法、等、事、同、意、候、事、持、
と、持、法、等、事、同、意、候、事、持、
と、持、法、等、事、同、意、候、事、持、

右、と、通、沙、持、法、等、事、同、意、候、事、持、

1874

1874

1874

小倉出漢中日載書後

大崎友三九

實七ノ七

六月廿四日

慈芳院採柿之果、少入念、其、為、此、法、在、元
地、及、草、野、藤、依、今、日、田、代、也、之、他、藤、依、依
法、要、用、書、物、稅、年、比、法、行、年、方、為、法、用、使、得、

同日廿七日

少入念、其、也、之、法、同、方、平、山、藤、二、亦、在、法、法、宿、
夫、少、上、之、也、亦、用、法、中、之、法、方、法、用、人、少、法、法、
法、同、法、書、草、行、入、法、同、方、平、山、藤、二、亦、在、法、法、
以、處、別、之、法、法、法、法、法、法、法、法、法、法、法、法、

今日午後少至京欣法本陣に及ぶに欣者
其は長計道に力くふし年一

余は津桑名宿旅宿に成旅務事平吉
之見人澄志より面談法由致去弟村おれ向
日之志方一也初又即之防長法及今此川
小念波来実実人法至持多し姫波波兼
平後沖光中少至京志波方後法本陣に泰上
平之此一面談一上口白致書及及音一此川
者及法由之志知事向冲中知力くむ此書向

之亦之公用人少物之及少欣之は年一
然事は其長及及口白致上志南者上本席
冲人命合お波中一知是之計兼進し進
公人命依相因村兼之及高分法而難は
進多志志一得由上上國許に波向之志及
以所之法方其志言了致け及志上及上及
一歩少所より然法由許に波向お波者及及向
冲用向志志及田代法由志志下下観及及
其法由及及田代及及法由志志下下観及及

日月廿八日

依家抄宛為代之申を以て而後防別之成幸し
摸欣道也

平山抄に「世にたかく申及る所。お氣を
伊沙伝毎に及急少し方及申之

對馬分願分形本思

押紙

吉田集貝人

副紙

時雄八郎

右之者在由時申動在以上

片名内

大崎友之元

日月廿九日

火之系抄要路一人屋所成たより而後は内敷
所より伊沙伝向く公妻曲及無誤は是也
少好之

七月節

平山抄に「伊沙伝行下お氣を申之申之

同日音

今月五葉名山系底之定之推好入
高治之系妻知我氏于外法度知人等
崎乞入之り少少合也

同日音

田代平江

右ノ通達ノ海客ノ望

七月

今月... 同日...
 ... 同日...
 ... 同日...
 ... 同日...

七月... 同日...

宮中...

清内用言

... 清内用言...
 ... 清内用言...
 ... 清内用言...

今更に我未だ
移るべしと云はれ
程に決中と云言
と云はれ
と云はれ

述る所の状今終るの時中二日一夜子刻前
梅口謙之亮國分三た馬あ人下より席定掛
まはるる方掛の處而伸を認り人七人圍り
六の助は居るが如く通接の後より切掛
あ人云振席の力抜合は得た而給其外輕く不
承も負其法打外よりあ人蒙るを道とて
お通ひ付極く亮文及助國分市亮未事連
証付は如及事人應前不相見極く亮文
云語前不相通候とお少之た馬云云語

お通の母は一向誰の心も成り今も由
志人云抄抱るは御免の今曉るに
お果の辰双舌親類より御相面は分
捨使亦方之及此味は志素隣且とも凡
猶又市中觸逢亦も及の母は一向お通
多掛言も其節小川舎人後回乃由
お少の字各は方掛の時分御程先
通之居始末不見清述お少相稀代
爰事の事記沖國作不福は中苦念事の

活は強は免の市元候快事一通は御
作付の候お通の且又右殺害の場は御
書付一通石高押控有るは御より
お少味方度事筋は相違あるは候
一建お少の度は御控

宣

三月十日

平田馬六郎
平田重及

右川采女
樋口後守
右川意浦右衛門

平田要
 古田為元
 古田將監
 古田益城
 古田典膳
 古田法為及
 古田三斗及
 古田美之者田名

古田法為及
 古田三斗及
 古田美之者田名

古田美之者田名
 古田三斗及

古田三斗及


古田典膳及
 古田益城及
 古田將監及
 古田為元及
 古田要及

古川 劉公浦 古川及
樋口 袂守 印及
古川 采女 及

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十



清田考

Faint vertical text in the left column, likely bleed-through from the reverse side of the page.



二五三十一

Faint vertical text in the right column, likely bleed-through from the reverse side of the page.

南門外

今春元月
庚戌年

以內狀今營之山此節長路涉征討
涉切迫涉時節之壯壯以時何如
萬芳院採涉速及不其故一之總討
中進發子之微高抄拍大涉友之元法
中歸國之涉甘以時涉英中一小是系
去波子柳台涉日音之為涉在是處
涉合之氣之依藝州廣涉之之涉松松
小是系柳之小舍嘉之涉也涉涉涉
涉居張之涉涉之涉及涉之涉

小倉書曰子誠小笠原海軍少將也
 涉海之極也又及于海軍之極也
 涉海之法也且以狀末之通中誠也後
 狀末之涉海之極也小笠原海軍少將也
 去初日亦同而初涉海之極也友之元
 出及亦極促以似也右西國軍也
 狀末之通書局之級也子也其極也
 至中是也涉海之極也子也其極也
 涉海之極也子也其極也

彩衣兒及洋孩也其妻極之海也
 涉海之極也子也其極也

其是也

古川 宋女
 樋口 快四郎
 古川 蒼浦高
 仁 佐藤了郎
 村 是相模
 中 田為之元

右川將監
德雄益城

右川治右美友
右川白針友

涉状未之者略以

右涉状去朝日お逢
改書之以及
清延普以心定

黄赤川之音

右川之針



右川 泉女友
樋口 鉄四郎友
右川 善浦翁友
仁 伝 孫一郎友
村 長 和 模友
平 因 為之元友
右 雄 益 城友

卷之二
目錄
一 論
二 論
三 論
四 論
五 論
六 論
七 論
八 論
九 論
十 論
十一 論
十二 論
十三 論
十四 論
十五 論
十六 論
十七 論
十八 論
十九 論
二十 論
二十一 論
二十二 論
二十三 論
二十四 論
二十五 論
二十六 論
二十七 論
二十八 論
二十九 論
三十 論
三十一 論
三十二 論
三十三 論
三十四 論
三十五 論
三十六 論
三十七 論
三十八 論
三十九 論
四十 論
四十一 論
四十二 論
四十三 論
四十四 論
四十五 論
四十六 論
四十七 論
四十八 論
四十九 論
五十 論
五十一 論
五十二 論
五十三 論
五十四 論
五十五 論
五十六 論
五十七 論
五十八 論
五十九 論
六十 論
六十一 論
六十二 論
六十三 論
六十四 論
六十五 論
六十六 論
六十七 論
六十八 論
六十九 論
七十 論
七十一 論
七十二 論
七十三 論
七十四 論
七十五 論
七十六 論
七十七 論
七十八 論
七十九 論
八十 論
八十一 論
八十二 論
八十三 論
八十四 論
八十五 論
八十六 論
八十七 論
八十八 論
八十九 論
九十 論
九十一 論
九十二 論
九十三 論
九十四 論
九十五 論
九十六 論
九十七 論
九十八 論
九十九 論
一百 論

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese calligraphy (sōsho). The text is arranged in approximately 10 vertical columns, reading from right to left. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

書

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese calligraphy (sōsho). The text is arranged in approximately 10 vertical columns, reading from right to left. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese calligraphy (sōsho). The text is arranged in approximately 10 vertical columns, reading from right to left. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

今事起急
校核財公

尚賦金幣之平
此年收之原山使若
二用之在左邊
來之原之先書
海之意之左
及之通之書
此年收之原山使若
二用之在左邊
來之原之先書
海之意之左
及之通之書

此道多苦深之五具
亦同見之 故守以清名之女子
柳袁之科理之天方中
殿極

一
亦既居極之清之及之女子
亦之言極之世業之女子
同十九日之復其如物也
右之度之海清之女子
此言極之復其如物也

之至要後法復之清之女子

八日十日
右川 采女
樋口法守
右川 是浦
仁位 涼一
村 是相
平田 是
右川 將監
為 非首

右川海邊友
右川主計友

右川主計友
右川主計友
右川主計友
右川主計友
右川主計友
右川主計友
右川主計友
右川主計友
右川主計友
右川主計友

右川主計友

右川主計友



鴻雄益伴友

平田為元友
村松相模友
仁佐源一弟友
右川主計友
極川主計友
右川主計友

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language or dialect used.

津田用者

Faint vertical text in green ink, likely bleed-through from the reverse side of the page.

二六ノ子ノ子

中四四四

上水知沙由波
披身衣言即多助合
吾辰沙豆四者至
沙龍高一段波連象
何事沙龍波相和
忍之古一車一人

以自其之也古在平肥前古秋之古舟以
日使者之也誠日依大為古元不中秋以
書狀去月九日古達以舟知之也古舟
一依收業之通古達古者去三百年古
萬利取古船古見古依古古書古古
古而古古中別古古者古古古古古古
古使者古古古古古古古古古古古古
古古古古古古古古古古古古古古古
古古古古古古古古古古古古古古古
古古古古古古古古古古古古古古古

古古

子高(四)金(五)揚隆(六)汝(七)月(八)法(九)使者(十)意

法科(十一)理(十二)之(十三)名(十四)等(十五)

一 日四日法使者若名(如)為(如)領(如)年(如)未(如)姓
使(如)等(如)也(如)

一 日七日法使者(如)名(如)也(如)今(如)日(如)法(如)任(如)名(如)動
力(如)之(如)名(如)也(如)通(如)古(如)達(如)立(如)之(如)用(如)人(如)衆(如)動
早(如)回(如)領(如)名(如)也(如)外(如)平(如)回(如)車(如)之(如)氣(如)候(如)舞(如)人
也(如)律(如)牙(如)立(如)之(如)名(如)也(如)為(如)保(如)奉(如)者(如)等(如)也(如)
律(如)牙(如)立(如)之(如)名(如)也(如)日(如)新(如)也(如)名(如)也(如)若(如)年(如)月(如)日(如)

一 日使者入(如)奉(如)之(如)名(如)也(如)通(如)也(如)通(如)也(如)
別(如)依(如)許(如)海(如)之(如)名(如)也(如)及(如)法(如)日(如)候(如)之(如)名(如)也(如)通
音(如)也(如)律(如)牙(如)立(如)之(如)名(如)也(如)若(如)年(如)月(如)日(如)
殿(如)樣(如)

一 日八日肥(如)者(如)若(如)名(如)也(如)律(如)牙(如)立(如)之(如)名(如)也(如)
音(如)也(如)律(如)牙(如)立(如)之(如)名(如)也(如)若(如)年(如)月(如)日(如)出(如)也(如)
律(如)牙(如)立(如)之(如)名(如)也(如)若(如)年(如)月(如)日(如)出(如)也(如)
律(如)牙(如)立(如)之(如)名(如)也(如)若(如)年(如)月(如)日(如)出(如)也(如)
律(如)牙(如)立(如)之(如)名(如)也(如)若(如)年(如)月(如)日(如)出(如)也(如)

鷓鴣按連酒一樽水之中
鷓鴣按連
酒二樽

一日十日

沖隱居様より
鷓鴣按連
酒二樽

同日

古酒

同日

沖隱居様より
鷓鴣按連酒一樽
水之中
鷓鴣按連
酒二樽
同日
古酒
同日

乃之系業外于弟之儀有實之定指
係之より名一最年津預海が事
上之儀古名之由却合之由儀あり
上之痛之由由在由弟之由儀あり
一上通之及由儀あり
此方様より由使者より名をとり
及此由儀之法より由公母より由儀あり
此等より由使者より由儀あり
打拍大流者より由儀あり

之事不為又了方義素几行由痛
是正之通由熱病之通より由儀あり
名振表之由使者より由儀あり
中免角之由上由熱病之由儀あり
只之由痛より由儀あり
下得由之由儀あり

八月十日
吉川 栄女
相口 孫四郎
吉川 嘉浦吉

仁位疎一少
村長古梓
平田為元
古門將造
鴻雄益故
古門居實受
古門主計及
古物業之者略
右狀去初日申達心
古門主計及

上

十月十日

古門主計



鴻雄益故
平田為元
村長古梓
仁位疎一少
古門居實受
古門主計及

古川系女夜

古川系女夜
此書乃古川系女夜
之傳記也其書中
載其生平事蹟
及與古川系女夜
之關係等事
其書中載其生平
事蹟及與古川系
女夜之關係等事
其書中載其生平
事蹟及與古川系
女夜之關係等事



古川系女夜

御用書

Faint, illegible handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.

宮中御用書

Faint, illegible handwritten text on the right page, possibly bleed-through.

冲微之致永智
 在沈妻也者穿
 有之若信人商
 身之秋之修下
 法所事也总注
 其公言也故如
 其之小海之虎
 其之也人之海
 其之也人之海
 其之也人之海

以用所一建之步
 五馬入陽之免
 亦少法不害之
 其附所之之也
 列与一之否也
 然之也人之也

十月古亭

古川宋女

去田軍月之反
 修非八尔反

冲微之致永智

右津州吉平六日書送江清書清請
申上張廷

二月廿八日

馮維八郎



吉田集見



高川象也

坂

[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

右... 中...

以... 刻...

一... 云

将... 小... 法...

法華經の旨を説く如く法華の幹に
しては差別の法智を以てする
由心法徳通に成るは法華の
法下句の終に成るは法華の
法華の旨

法華の旨を説く如く法華の幹に
しては差別の法智を以てする
由心法徳通に成るは法華の
法華の旨

一 法華の旨を説く如く法華の幹に
しては差別の法智を以てする
由心法徳通に成るは法華の
法華の旨

中山志

將軍家法此家之守密院法之在也

將軍家則必之於居於此法之守也

之由所以法之守則也此法守法守

此家以地法之法守之法守

去上之法守之法守之法守

去之法守之法守之法守

此家之法守之法守之法守

之法守之法守之法守

之法守之法守之法守

之法守

之法守之法守之法守

之法守之法守之法守

之法守

之法守之法守之法守

之法守之法守

夫子之歌也予也其民之志也其
之也

夫子之志也此則和也山而一遂城
其私以和也予也予也予也予也
予也予也予也予也予也予也予也
予也予也予也予也予也予也予也
予也予也予也予也予也予也予也
予也予也予也予也予也予也予也
予也予也予也予也予也予也予也
予也予也予也予也予也予也予也

清湖口系者其也

有之也予也予也予也予也予也
予也予也予也予也予也予也予也
予也予也予也予也予也予也予也
予也予也予也予也予也予也予也
予也予也予也予也予也予也予也

清湖口系者其也

清湖口系者其也

九月十九日

高馬元振
村名相模板
仁德孫一印板
古川乘女板
檀白快印板

以內狀破在信濃清原公之上水知信卷說

古川乘女板

長川合原城攻其幻砲步至則上

如字以抄因少抄書之亦在仁德合

虛說之能名古抄中砲步誤傳也

古川乘女板

古川乘女板

湯陽抄卷之二風說少公法在古川

高代
去月八日

去月八日長生寺
年我一人之死
賜乞何
聖光日大
此多打有
精人

大
只
也
也

小
持
乃
也

小

長功有金之右守秋宰相受

皇國上之意也守使

一天萬乘名大馬日松之御頭欲

討采之也為我城玉口軍馬指食

也事也望之天也

幕府上使たりん生事一人小返る

信り割れゆ仲

吉川経河

慶應二年

毛利是元

室戸忠康

右之室戸部は松平氏に因りて

と云ふ也此は松平氏

信田守忠

幸清忠康

九月十日

信田守忠

幸清忠康

村子お摸杯

仁徳部杯

長門藩部杯

榎白部杯

長門采女杯

三丁丁丁丁

沖内用谷

淡路英... 島本... 島本...

今を以て
 多し
 多し
 多し

以て然るを以て
 善美者流
 洗滌抄披
 方寸
 神聖
 妙法
 妙法
 妙法

妙法蓮華經
 卷之
 卷之

乃牙之... 乃牙之... 乃牙之... 乃牙之... 乃牙之...

乃牙之... 乃牙之... 乃牙之... 乃牙之... 乃牙之... 乃牙之... 乃牙之... 乃牙之... 乃牙之... 乃牙之...

乃牙之... 乃牙之... 乃牙之... 乃牙之... 乃牙之... 乃牙之... 乃牙之... 乃牙之... 乃牙之... 乃牙之...

乃牙之...

乃牙之...

乃牙之...

乃牙之...

乃牙之...

乃牙之...

乃牙之...

古門將監
德相益
氏白與

古門治案
古門至計

石世狀去月某日古達山...
望

十月

古門至計



氏白與
德相益
古門將監
平田為元
村是相模
仁佐源
古門
極口
古門

此中及此二將
前丁潔江之收
此二將江之收
所為潔江之收
此中及此二將
此中及此二將
此中及此二將
此中及此二將



此中及此二將
此中及此二將
此中及此二將
此中及此二將
此中及此二將
此中及此二將

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

涉内用卷

[Vertical handwritten text in the right margin]

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

今もこの御書は
 御教の旨を
 多分にも前の方
 には書かれています
 今もこの御書は
 御教の旨を
 多分にも前の方
 には書かれています

公内状へ
 公方様
 公方様
 公方様

(Faint vertical text)

堯沛沛抄出...

上樣...

作...

先...

少...

有...

有...

堯沛沛...

沛代...

堯沛沛...

沛...

堯沛沛...

去...

作...

上...

才...

堯...

堯...

沛惟若樣之有年不惟沛國沛
之為取法法猶不直且沛國向之
一未判之形勢不一形沛國道行第一且
之惟之未判使之若彼以之河漢大計使
之若彼及及詳議於朝不之若彼
其沛之依德密之使主以依德密之若
於以國意之若及及沛國意之若
以若知沛及及沛國故出之若
若後沛沛河中之言之依定何之若及

沛河夜之迫例其政之十年在也
沛養若若之沛也月漢
溫恭院樣沛沛化界之若之若之若
沛若知沛沛沛之若之若之若
以若若沛沛之若之若之若之若
法事之沛沛之若之若之若之若
依之若之若之若之若之若之若
若若之若之若之若之若之若之若
若若之若之若之若之若之若之若

中述如新日度公忠地後之

黃

九月廿五日

右川采女

樋口珠子郎

右川善浦郎

仁佐孫一郎

村長右模

平田為之元

鴻雄並城

右川治左馬友

右川之針友

治状末之者略以

右沙州状去曾右達以証書及治通書以

以之

右川

右川之針



鴻雄並城友
平田為之元友

村長相模皮
仁佐孫一郎皮
古川 意濃一郎皮
樋口 鉄四郎皮
古川 糸女皮

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

將軍相模皮

仁德將軍皮

古川志遠命皮

樋口親世命皮

石川宗女皮

大津守命皮

大津守命皮

大津守命皮

三ノノノノノ

事

公國... 記... 可... 所... 有... 時... 有...

七三〇名の物未だ
控へんといふは作向の
大勢のあつたは
御前

心内状今書之の先書沙石言量松平
肥前守御前沙海色石河内書通言
近頃其大徳有元海色海色作言
此書仕立言一紙不自如航言言
然支
沙海色御前沙海色御前沙海色御前
分御前御前御前御前御前御前御前
沙海色御前御前御前御前御前御前
御前御前御前御前御前御前御前御前

御前御前御前御前御前御前御前御前
御前御前御前御前御前御前御前御前

御前御前御前御前御前御前御前御前

力はつて女を養ふ事あり
市海女存し海女今絶たぬ
市海女存し海女今絶たぬ
市海女存し海女今絶たぬ
市海女存し海女今絶たぬ
市海女存し海女今絶たぬ
市海女存し海女今絶たぬ
市海女存し海女今絶たぬ
市海女存し海女今絶たぬ
市海女存し海女今絶たぬ

女存し海女今絶たぬ
市海女存し海女今絶たぬ
市海女存し海女今絶たぬ
市海女存し海女今絶たぬ
市海女存し海女今絶たぬ
市海女存し海女今絶たぬ
市海女存し海女今絶たぬ
市海女存し海女今絶たぬ
市海女存し海女今絶たぬ
市海女存し海女今絶たぬ

九月十五日

古川 采女
樋口 採女
古川 採女
仁 採女
村 採女
平田 採女
湯井 採女

古川道安友

吉川季年友

少葉三有田友

石川成吉友
及石川通吉友

吉川

吉川



崎雄首休友

平田高元友

村尾相模友

仁佐源一友

古川嘉浦友

樋口隆平友

古川采女友

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

冲内用字

卯
中
新
色

中日國

多事之國也
我多設防之也
彼亦多設防之也
征伐之事也
自商之末也
其多設防也
也之也

當時今魯古胡舞國口併國軍艦
液乘我冠衣等利吾曰話也
爾所之也其人以情事言也
於此海右我國之信也少折也
古之也海中一牙和解也及後也
下之也海牙也其也其也通及
沙日言矣今叙右我年也其也
其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也

公方樣以人沙海方并出後於物之好
有合理化之の言も且相能國之儀
有る之四葉之也則或る夫之也
其也其事一也物古格介國志交際
推合差道中信義お之松原中
了也然るも此所為輪書也唐正月
沙波人言其下後其言も其志達也
沙波命之也名も波國以也方之也
也

本朝之沙大害之海儀二年方并其別
也其儀中收儀之也方之也其事
中之儀之也其不安夜念事之也
以因之也其儀也及投也方之也
公也之沙海言も其也
本朝之信賴也其也沙公也之海
其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也

紫道通及名也大戶使之及也
波信之事一乃彼國之操松劫度之
急死之不可進守有元連軍
亦名之也

公名之沙時本位之及沙族力之及
後子也

一右之通以可居輪者沙族之沙役人
言者不之也沙達之為家於又大小
沙道索也且外國也其之也

而後胡部之及沙族海之府者也
名沙也沙法之也其法也其法也
如常之也其法也其法也其法也
沙內令之也其法也其法也其法也
沙上之也其法也其法也其法也
沙月通也其法也其法也其法也
其法也其法也其法也其法也
其法也其法也其法也其法也
其法也其法也其法也其法也
其法也其法也其法也其法也

皇地院海濱寺令一書狀第一回書達
少守朝氣方以得口古源生於東海濱
正欲寄沙之屬也

此方樣上書達之沙中遠少之是也
此樣抄白一上通及源中述以去相代信
余未易人仁信格及致對向以去之取
於皇地沙而日中引成通沙達有
於引成沙口達之也之也輪者去上者
歸京以和之也事一書沙達有之於名

東地引成沙中令一書狀第一回書達
源生於東海濱寺令一書狀第一回書達
中未易人仁信格及致對向以去之取
於皇地沙而日中引成通沙達有
於引成沙口達之也之也輪者去上者
歸京以和之也事一書沙達有之於名
了方之也源生於東海濱寺令一書狀第一回書達
於皇地沙而日中引成通沙達有
於引成沙口達之也之也輪者去上者
歸京以和之也事一書沙達有之於名
了方之也源生於東海濱寺令一書狀第一回書達
於皇地沙而日中引成通沙達有
於引成沙口達之也之也輪者去上者
歸京以和之也事一書沙達有之於名

可... 法... 書... 契... 血... 調... 方... 志... 孝... 子... 介
以... 何... 為... 向... 行... 宜... 原
公... 名... 之... 少... 知... 少... 因... 以... 成... 經... 年... 長... 而... 其... 名...
幸... 之... 名... 之... 身... 之... 松... 中... 以... 其... 未... 達... 方... 之... 夜... 終...
右... 限... 心... 中... 由... 其... 所... 在... 也... 抑... 淺... 之...

卯
二月三日

古川 采女
古川 蕪浦 翁
仁位 孫 翁

村園 相 模
崎 唯 益 敏

古川 治 兼 友
古川 至 村 友

右... 狀... 志... 立... 下... 右... 邊... 山... 之... 及... 其... 處... 之... 山...
山

三月三日

古川 至 村


鳥雅善博友
村長古樸友
仁江疎新友
古川景浦新友
古川糸女友

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

市川用卷

[Faint, mostly illegible handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side.]

市川用卷

村尾本様及

[Faint, mostly illegible handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side.]

お意湯法の中より三郎流漢中へ候
程又中勝元へお意文より及ら達
存お折お底海左邊へと承洋船
付書お折紙お紙と法左邊及と高
同人多法義達へおとと此所
お意めお折紙へお折紙へ

卯二月廿日

古川 来女
古川 浦多

仁佐源一市
小川 丹下
村 墨相換
村 園近江
法 雅善哉
古川 法左邊及
古川 来女
お折紙へお折紙へ
右の折紙へお折紙へお折紙へ

以上

三月廿五日

古川



寫雄並城皮
村園近江皮
村園相換皮
小門丹中皮
仁任孫一皮
古川浦皮
古川東女皮

以上

卯三十一

市川用書

上西の物事
中
海
女
採
集
の
後
に
行
く
事
に
関
し
て
の
事
を
記
す
事
に
関
し
て
の
事
を
記
す
事
に
関
し
て
の
事
を
記
す
事
に
関
し
て
の
事
を
記
す

以て自然の事として言ふ所の事
肥前守の所
大津の元
津波の採り
新文者

津波の採り

意は山本其方よりいかに彼をたがひし
おもしろくはたしむると思ふに付り來る家傳
田邊といふ條 終は別條の事あり
り秋芸軍史抄の事なり山本其方より進
御之條の故來の道あり漢古あり
亦と藝の山本其方より事あり
汝の家傳より出るといふこと後詳條の事
版條 山本其方より
山本其方よりいかに同業

思ふに付りり終は別條の事あり
山本其方より出るといふこと後詳條の事
此節の故の條あり 終は別條の事あり
山本其方より出るといふこと後詳條の事
書抄の事あり山本其方より出るといふこと
おもしろくはたしむると思ふに付り來る
山本其方より出るといふこと後詳條の事
山本其方より出るといふこと後詳條の事
山本其方より出るといふこと後詳條の事

清心之念を遊りて其の心は静かにありて
通海なることありて其の心は静かにありて
多かるにその心は静かにありて其の心は静かにありて
少かるにその心は静かにありて其の心は静かにありて
又その心は静かにありて其の心は静かにありて

六月廿二日

古門 采女

古門 意濃

仁徳 彦之

村屋 杉屋
清雅 益城

古門 治志 友

古門 友

り我末又其者あり

右の村屋杉屋と日お逢ひの事ありて
以て

守月

古門 守月



清雅堂藏
村園水鏡皮
仁位源一節皮
古月堂藏一節皮
古月 采如皮

古月堂藏一節皮



冲用言

Faint vertical text columns on the left page, likely bleed-through from the reverse side.

Handwritten vertical text located at the bottom center of the left page.

Faint vertical text columns on the right page, likely bleed-through from the reverse side.

中 不 正 也

今亦不知其
柱石之多少
胡邪向之
之在也
方寸之寸
リヤ
相
乃
も

徳子ハ曰ク今破古於何者歟
上ノ様事米
將又相
乱妨
之通
中邪
在焉
中邪
新刊

改由と云日本清國の相違を調御すに
お掛合又と云主君の親にお上り候事
西洋に申す神智云々とお上り候事
お遠方よりお参り候事
及也候事
申す所
申す所
申す所
申す所
申す所
申す所
申す所
申す所
申す所
申す所

公使方及存候
申す所
申す所
申す所
申す所
申す所
申す所
申す所
申す所
申す所
申す所
申す所
申す所
申す所
申す所
申す所
申す所
申す所
申す所
申す所
申す所
申す所

申す所
申す所
申す所
申す所

古川某
古川某
古川某
古川某

仁任源一
村是古
修相益故

古月益安友

古月益安友

古月益安友

古月益安友

古月益安友

古月益安友

古月益安友



古月益安友
古月益安友
古月益安友
古月益安友
古月益安友

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record, spanning the left page of the manuscript.

仁德濟
村長古
仍相
Handwritten text in a cursive script, likely a list or record, spanning the right page of the manuscript.

然其死之遠不主却去川
臨終下先自中九之志死牛我如生
此心必以濟平山是書以松山
許也向之象 治法軍體之商月
中勿之庫也及余能一旦長海山也
如去之日不涉海沙之風中如也
用身松之山在深山中向之未也人病

五七二八
嘉慶四年
六月
二十
九日
奉
旨
將
前
在
滇
南
辦
理
各
案
該
部
知道
欽
此

五七二九
嘉慶四年
六月
三十日
奉
旨
將
前
在
滇
南
辦
理
各
案
該
部
知道
欽
此

五七三〇
嘉慶四年
七月
一日
奉
旨
將
前
在
滇
南
辦
理
各
案
該
部
知道
欽
此

五七三一
嘉慶四年
七月
二日
奉
旨
將
前
在
滇
南
辦
理
各
案
該
部
知道
欽
此

五七三二
嘉慶四年
七月
三日
奉
旨
將
前
在
滇
南
辦
理
各
案
該
部
知道
欽
此

五七三三
嘉慶四年
七月
四日
奉
旨
將
前
在
滇
南
辦
理
各
案
該
部
知道
欽
此

上方至渡法之... 越山

一 法先中板倉... 解由... 之...

中... 案... 之...

三月廿... 古川...

古川...

仁...

古川丹下

村邑相摸

村邑迤江

清雅益城

青迤原分

古建王社

古建王社

六月

古建王社

青迤原分

清雅益城

村邑迤江

村邑相摸

小川丹下

古建王社

古川采女

此我社之遠事也
公義也及人相以
此件也及人相以
之也而方之也
因令也而方之也
之也而方之也
之也而方之也
之也而方之也

此我社之遠事也
公義也及人相以
此件也及人相以
之也而方之也
因令也而方之也
之也而方之也
之也而方之也
之也而方之也

位のつとむるに事多由は
この世に世に及ぶ所は
道中も深況難得る凡そ
与推察も存下りしは
之際も甚南の事も
洞中へ入る事も
佐介は事も事も
人之通はる人探大難
少知はる事も
目下も支那も
中へ援助伸入る事
少くも事も
事も事も
事も事も
事も事も

海法使或謂其地之及海後地之
堪宜其人之身也其于一於程常為
復定之法也及此後亦有海法使
向此於其身年也其之一會其為
已此也也也也也也也也也也也
其法之法之法之法之法之法之法
其法之法之法之法之法之法之法

海內用者

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, appearing as ghosting of the original calligraphy.

於行方後
上之樣而安來
且胡解字
中一校板是
也一校板是
也一校板是
也一校板是

一第令皆之山龍河方後
上之樣而安來
有之樣而安來
別書裝
沙市用
中瑞國
少系
風信
明叔

Vertical text bleed-through from the reverse side of the page, appearing as faint greenish characters.

の廣く漢書を研
法意調中達し山意
を能く法因を撰り
高き法を何れとす
少法達しおれを
高し研おれを
治意及意書味を
中書及る彼地書
高書及る高書
法意及る高書
法意及る高書
但探案し別後

將軍中漢書次所中入上海
火輪船の給取艘割送迎の調
江戸表の想法候書合朝鮮
少法及る中書然るに彼國
浮候喧嘩及西月不穩の才
及少書知少報書と少反法
俄別出来候守一候所
合書と通少書及る
英佛二定之

井上内閣の義
行の早急延梅
義意の早急延梅
及少書及る高書
高書及る高書
思物くく
中達連の通書
少法及る高書
わが
伴
中達

本朝より朝鮮少法候
有る候と及少書及る高書
及少書及る高書
少法及る高書
朝鮮少法候
少法及る高書
少法及る高書
少法及る高書
少法及る高書
少法及る高書
少法及る高書
少法及る高書
少法及る高書

此與...
...
...

台應...

公言... 不及... 疑念...

... 與... 支...

... 涉... 涉...

... 涉... 涉...

... 涉... 涉...

... 涉... 涉...

... 涉... 涉...

... 涉... 涉...

... 涉... 涉...

... 涉... 涉...

... 涉... 涉...

... 涉... 涉...

... 涉... 涉...

... 涉... 涉...

... 涉... 涉...

... 涉... 涉...

存公府有身... 慎法... 出帆... 公府... 公府... 公府...

公府

公府

右門采女

右門采女

仁德源一

小門丹下

村園相換

村園
源雅
益城

右門采女

右門采女

右門采女

右門采女

右門采女

右門采女

右門采女



清非 益 德 夜
村 園 迤 江 夜
村 園 相 投 夜
小 門 丹 下 夜
仁 德 德 之 夜
古 門 德 浦 夜
古 門 采 女 夜

古 門 德 浦 夜



法... 卷... 多...

印内用卷

卷... 外... 印... 卷... 印... 卷... 印... 卷... 印... 卷... 印...

印... 卷...

法... 卷... 印... 卷... 印... 卷... 印... 卷... 印... 卷... 印...

市紙上之教書
未細之紙以紙
有元元一子云

以內狀中進以京都在川治在河
先月十九日之急為之書狀中進以
外西沙其平之書狀中進以
沙少向之象 治先沙因付板之
差係之書是云 治先沙其平之
治平之板之文一旦沙軍繼之急以東
少之之沙一同沙軍繼之苗月十日
告庫沙其文之沙上京河白之共庫
沙及紅一先長濟之沙河與之同

市紙上之教書

Handwritten notes at the top of the right page, possibly a title or date.

Main body of handwritten Japanese text on both pages, written in a cursive style. The text appears to be a historical record or a letter, mentioning various locations and events.

おまの海と家名を記合す
水海若坊心持と為中甚く以後奇
中甚くおまの海と

三月木曾

村国迫江

大崎有元及

岩崎浪江及

後一文字孫三新妻及安江所五人月三人

宗徳下津附早の海に中甚く及

右の書書以須書号谷仕公以

四月冒

岩崎浪江

大崎有元

村国迫江

并... 諸... 公...
... 諸... 公...
... 諸... 公...

竹園詩公集

大... 諸... 公...
... 諸... 公...
... 諸... 公...

竹園詩公集

... 法口用普 ...

法口用普

行中...

首狀と書しに物部守平の御出軍艦
復來我國に始末を叙せ長海
大源と云ふ事あり及

事と事ありと
忠臣傳の事あり
忠臣傳の事あり

忠臣傳の事あり
忠臣傳の事あり
忠臣傳の事あり

忠臣傳の事あり
忠臣傳の事あり
忠臣傳の事あり

公方操佛人、公方許出後、竹馬
と收、公方操佛人、公方許出
物記國、公方許出、公方許出
夫、公方許出、公方許出、公方許出
仲國、公方許出、公方許出、公方許出
公方許出、公方許出、公方許出、公方許出
公方許出、公方許出、公方許出、公方許出
公方許出、公方許出、公方許出、公方許出
公方許出、公方許出、公方許出、公方許出
公方許出、公方許出、公方許出、公方許出

おまじり

本朝、公方許出、公方許出、公方許出

仲英、公方許出、公方許出、公方許出

本朝、公方許出、公方許出、公方許出

仲英、公方許出、公方許出、公方許出

公方許出

公方許出、公方許出、公方許出、公方許出

本朝、公方許出、公方許出、公方許出

公方許出、公方許出、公方許出、公方許出

今収り所居編年以後止る女名に或る
年未だ然切に然代傍と云はれ抄上原
頭字中より一紙一紙並出さるる
及意書退云有く支る道口宅に入来
並面今も大目録に採抄中書也
口録中一紙抄取の事と採抄中
若ありら直に公下しに中頭字
中より書狀一紙並出さるる意書
取の上中一紙大目録に採抄中

南宮の事から早稲の事と云はれ
た也編年以後止る女名に或る
年未だ然切に然代傍と云はれ抄上原
頭字中より一紙一紙並出さるる
及意書退云有く支る道口宅に入来
並面今も大目録に採抄中書也
口録中一紙抄取の事と採抄中

一 左月廿日朝氣園(書仲)一
市並書(一)市書(一)狀未(一)為常(一)
火(一)出(一)出(一)出(一)出(一)出(一)
草(一)草(一)草(一)草(一)草(一)

江及中一統法の如く
一通信達之状未
中皮公事白子
中皮公事白子

右之原力
中皮公事白子

右之原力
中皮公事白子

右之原力
中皮公事白子

右之原力
中皮公事白子

右之原力
中皮公事白子

村居相換
村居迫白
清非益故

平田百九度

清非益故

右之原力
中皮公事白子

清非益故

平田百九

清非益故



村居近江反
村居右拍反
小門丹下反
仁位添中反
右門蓬浦中反
右門余女反

右門蓬浦中反
右門余女反
右門蓬浦中反
右門余女反

村居近江反

村系由...
村系由...
小川...
仁德...
古...
高岡...

沙田用云

...
...
...
...
...
...
...
...

百味合抄

於海原の玉汗の口は海と此合抄

は若くは秋夜をいふ月の中と

清くは花の能わす月の光をいふ

と糸糸の口は口は口は口は口は

力くは口は口は口は口は口は

とくは口は口は口は口は口は

とくは口は口は口は口は口は

とくは口は口は口は口は口は

及乎不...
海...
...

一 遠征の... 兵士の... 戦... 打ち合
 多... 打ち合
 津... 打ち合
 ... 打ち合
 ... 打ち合
 ... 打ち合
 ... 打ち合
 ... 打ち合
 ... 打ち合

右... 左... 中...

古川 采女
 古川 菫浦
 仁徳 淳一郎
 村屋 相換
 清唯 三城

平岡 百 元 友
 右... 左... 中...
 平岡 百 元



清雄堂後

村屋相掩

仁後通所

古川嘉浦寺

古川余女

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '村屋相掩' and '古川嘉浦寺']

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

清心園記

卯二月十五日

村屋本棟
仁後建
右門
右門

子之知也
是之故也
此之故也
此之故也
此之故也

尚欲令諸公去年十月廿日附志

亦未付且信及山阿方

亦未付沙平年

亦未付烟耕日物

亦時

亦未付方沙月

亦用

亦未付家 亦以物

了却此一役者誠以也尚付

也

清泰府一清文料抄周公儀之

高都各道例也

清立國之儀及及也何夜及及禮儀何家

源書及清家先清去來及及禮

尊意也何也何清同意也

思也也何也何清也何也

為也也何也何清也何也

清立國之儀及及也何夜及及禮儀何家

清本府抄也何清也何也

抄也何也何清也何也

何也何也

尊也何也何清也何也

清立國之儀及及也何夜及及禮儀何家

清本府抄也何清也何也

抄也何也

思也何也何清也何也

古秋古義知...
清志有...
清志有...
清志有...
清志有...
清志有...
清志有...
清志有...
清志有...
清志有...

清志有...
清志有...
清志有...
清志有...
清志有...
清志有...
清志有...
清志有...
清志有...
清志有...

古...
古...
古...
古...
古...
古...
古...
古...
古...
古...

古古仁小村鴻
 川川仁川村園堆
 泉意疎丹相迤益
 女滿節个換江城
 皮皮皮皮皮皮皮

四國英音

古川之針



古川治在馬皮
 古川自針皮
 沙狀末之者醫
 右治狀裝之日如海以紙書及西道善以
 以上

小川丹个
 村園相換
 村園迤江
 鴻堆益城

卷之四

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

卷之四

[Faint, mostly illegible text in a cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

少田用家

[Small vertical text or mark on the right edge of the page.]

心口世

以內此今破六四月廿五日沙玉中

指乘其法法故一少封事之海之

西東利也之使口少託守書翰子之儀

以列中一詳見其類之別也

以行筆類也人之同見存於各之筆中

於法同也之筆中一夫行筆書而後自

并少筆筆掛於少之筆也其

以於各之筆中一書中沒進後之國也

今中必不致也

知中必不致也

知中必不致也

知中必不致也

知中必不致也

冬無出川運

行少少以流緩自轉筆其成若多筆并

引字尚復其少少以連卷之筆其少所流

若後并多毛之少其少後其少連其

以行少之連流

卯月書

右川宋女
柳口決節

右川運浦右川

小川丹下

村名右橫

村名近江

流堆並城

右川治案皮

右川治案皮

右川治案皮

七月廿五日

清雅堂及

村系近江及

村系古橋及

小川丹下及

古川藤原及

地口藤原及

古川采女及

古川法華


古川采女及地口藤原及古川藤原及古川丹下及古川近江及古川古橋及古川清雅堂及

157

158

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
...

159

沙田用言

Faint vertical text in the left column, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten vertical text located at the bottom center of the left page.

たてておく

とて思ふは未
比極る全の和
とて思ふは未
とて思ふは未

留状と稱する先般は中板を以て
少連達と為る者相難國に成り
伸入ホトノ事と云ふは彼國あり
支那に侍於波ノ所は後と云ふは
急ニと稱索する中出は在る
子と稱索する者あり
且一代は稱索する者あり
此等と云ふは
大浦友と云ふは

先角用深窓、玉同車下、情之、
探案被中、大能、之、中、
中、之、
先、
中、
中、

中、
中、
中、
中、
中、
中、
中、

及沙返言以取の藤等して及終
右の候よりたう急如部 以度合
之地流流之

卯六月亭

古川宋女
榎白坂字部
古川意浦字部
小川丹下
村岡市操
村岡近江

鴻雄之埜

古川治郎及

古川主平及

以伏来と者員也

右の伏去八分お達し証書なる及び返書
以迄

七月七日

古川計


馮雄益城度
村園迤口度
村園換度
小門丹下度
古門意浦老度
古門溪口度
古門宋女度

古門溪度



古門溪度

淡路島

古村 古村 古村 古村 古村
古村 古村 古村 古村 古村
古村 古村 古村 古村 古村
古村 古村 古村 古村 古村
古村 古村 古村 古村 古村

古村

古村

淡路島 淡路島 淡路島 淡路島 淡路島
淡路島 淡路島 淡路島 淡路島 淡路島
淡路島 淡路島 淡路島 淡路島 淡路島
淡路島 淡路島 淡路島 淡路島 淡路島
淡路島 淡路島 淡路島 淡路島 淡路島

水戸黄門

尚然之徳と云於何方哉

上々様と稱す沙女米と云沙女自云

有之悦ぶ所又之収平と云書以在

古賀の坂坂を依り少の時直なり為は後

朝能はら後り波海の中へ交匯を源

思ふ波圃の福礼也立るを特し云寧

何やの人民世業を安んじ唐連を保

しめんく免彼也と云

沖國書に波を安んじと云於何方哉

この頃より代末を
指すんが成り起る
はりさなりは
ふれ一云

說

本朝上癡念之抱右以中
津國使以款訪之流者如
源公之公之使之彼國之時
以流之平大浦友友喜國月
波彼中波流一少并彼等
了官中の中事先月十五
以後初番而之其少之
於彼國後

津和為半耳也先何之
但彼之之失之過之候
之作出候是球之候
之計以牙但信之系方以中
返之云子あの中出以
中身在泡系之波方より
此事件の失也事之候亦
一之云之候之候之候之
之流して之候調分何不
之候

沖國使り波海之使をいりる合お成候
申出の如き大抵存候及の所を以て
押合波海之使を成候に相渡候
之使存候に法判の事も成候と申
大り直接の使一たび成候と申
之波海之使成候を以て申上申
以候申上申候事なり候に申上
先般
上は沖討書なるものなり候事

大抵存候波海之使及の事申上候
波海之使成候に候事申上候
官存候に候し候事申上候
公之是に候事申上候波海之使
あり

沖國書中達
皇國一般に波海之使成候事
候事何れ候事一たび成候事
候事何れ候事一たび成候事

之波海、緩き船、止中、
山、源、一、所、并、波、子、科、半、
令、書、事、狀、波、北、時、所、
字、所、進、之、此、辰、
之、所、進、
之、所、進、

之、所、進、
之、所、進、

右、川、采、女
極、口、候、四、所
右、川、道、浦、新

小、川、丹、下
村、國、相、換
村、國、道、江
崎、推、意、持

右、川、道、新、及
右、川、道、新、及

沙、波、事、者、有、候、也
右、川、道、新、及、
右、川、道、新、及、

有考

古川之針



古川之筆



為雄並城及
村園道江及
村園相換及
小丹下及
古川之筆及
極江快可及

古川采女及

古川采女及

法目用

Faint vertical text bleed-through from the reverse side of the page.

諸君
村岡
村岡
小
古
法目用

外
カ
シ
シ
シ

志田風

とあるは東洋の
言ふ所の海軍の
師の船力と云ふ
は少くは兵艦の
軍艦の軍艦と云
はるは海軍の
海軍の軍艦と云
はるは海軍の

自然の海軍の

上の様法海軍の

事軍艦の將又日回の部代産國法海軍

と及外海軍の系海軍の海軍法

清海軍の海軍一は海軍の海軍法

佐及海軍の部代海軍の海軍法

と海軍の部代海軍の海軍法

と海軍の部代海軍の海軍法

と海軍の部代海軍の海軍法

中世の歴史を論ずるに當りては、
其の源流を明かにせしむるに
先づ其の根本を究むるに
先づ其の根本を究むるに
先づ其の根本を究むるに
先づ其の根本を究むるに
先づ其の根本を究むるに
先づ其の根本を究むるに
先づ其の根本を究むるに
先づ其の根本を究むるに
先づ其の根本を究むるに

先づ其の根本を究むるに
先づ其の根本を究むるに
先づ其の根本を究むるに
先づ其の根本を究むるに
先づ其の根本を究むるに
先づ其の根本を究むるに
先づ其の根本を究むるに
先づ其の根本を究むるに
先づ其の根本を究むるに
先づ其の根本を究むるに

七月二十日
平田為元
源雄 書後及



中世の文藝は、その性質からいへば、
その中心をなすものは、その性質からいへば、
その中心をなすものは、その性質からいへば、
その中心をなすものは、その性質からいへば、
その中心をなすものは、その性質からいへば、
その中心をなすものは、その性質からいへば、
その中心をなすものは、その性質からいへば、
その中心をなすものは、その性質からいへば、
その中心をなすものは、その性質からいへば、
その中心をなすものは、その性質からいへば、

たゞし書物に於ては、その性質からいへば、
その中心をなすものは、その性質からいへば、
その中心をなすものは、その性質からいへば、
その中心をなすものは、その性質からいへば、
その中心をなすものは、その性質からいへば、
その中心をなすものは、その性質からいへば、
その中心をなすものは、その性質からいへば、
その中心をなすものは、その性質からいへば、
その中心をなすものは、その性質からいへば、
その中心をなすものは、その性質からいへば、

七月五日

平田為元



源雄言城及

Handwritten text on a green slip of paper, likely a correction or a note. The characters are in cursive and difficult to decipher, but appear to be a list or a set of instructions.

Handwritten text on the right page of the manuscript, written in cursive. The text is arranged in vertical columns and appears to be a continuation of the main text.

Handwritten text on the left page of the manuscript, written in cursive. The text is arranged in vertical columns and appears to be a continuation of the main text.

淳雄善哉及

七月廿九

平

村正 迫口 反
村正 相換 反
小川 丹下 反
古川 意浦 反
極白 淡四郎 反
古川 采女 反

七月二十日 田津陣屋。女中口留居
此後 河且津 貸附合口 並指し 津礼
中上平白 高彦 意言。子女 作 慶
産田 反 中上平白 指し 女中 津本 女
孫 女 已 物 一 一 女 反 津 反 女 女
女 孫 女 女 女 女 女 女 女 女 女 女
女 女 女 女 女 女 女 女 女 女 女
女 女 女 女 女 女 女 女 女 女 女
女 女 女 女 女 女 女 女 女 女 女

彼こそとて歌と行なりとて
又此のほはらふ女の人並に
少く多ふとてさう打の
正候道も沙羅花の
打清其備とてさう
おろしとお若の
新美くお物沙羅花

産国及より

夫國に候はば朝能くは成るる

は思ゆは方くは沙羅花多人
は成るるは方くは比は
作はるるは方くは代は
は買はるるは方くは
は思ゆは方くは
は思ゆは方くは
は思ゆは方くは
は思ゆは方くは
は思ゆは方くは
は思ゆは方くは

長門の故に... ありて... 由志... 今
 彼は... 口... 行... 故...
 地... 母... 法...
 口... 公...
 口... 母...
 口... 公...
 口... 公...
 口... 公...
 口... 公...
 口... 公...

長門の故に... ありて... 由志... 今
 彼は... 口... 行... 故...
 地... 母... 法...
 口... 公...
 口... 母...
 口... 公...
 口... 公...
 口... 公...
 口... 公...

長門の故に...

長門の故に... ありて... 由志... 今
 彼は... 口... 行... 故...
 地... 母... 法...
 口... 公...
 口... 母...
 口... 公...
 口... 公...
 口... 公...
 口... 公...

白髪別白実原の中一は方々多
り皆にお身い牙髪科一處一を好む日
静燈にお女と遊するうは世世二音石を
は度と信守する名との二も云法書之
法書と有くは及也

法書

長別法書經一日本道にお女のお
お達いり如法者と海に書面仕立は
い名國洋の中紙お達いりた書紙

可法書り如下一並い名書書紙

Handwritten notes on the left page, including the name "W. H. H. H." and other illegible text.

Handwritten notes on the right page, including the name "W. H. H. H." and other illegible text.

ソバ

ソバ

九月八日

右川
柳川
少川
新川
新川

少川

少川

御内用

わきあきまじりて
たしつゆとまひのち
しつとあまのりつ
乃とまじりて
多ふまじりて

以所折致等之昨日田吉部代達田治部
津洋津之沙統詞止洋信令有府
沙様抄身八行儀為津使者
對向津内儀津人引及之早速
平田為元及者上之並者
作越等之直為津津津
沙様抄之津下儀津津津
如所沙津津津

三ヶ
八月廿日

鴻雄八郎



去田年見



鴻雄並城柳
村園近口柳
村園相換柳

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

七月三日田中陣屋に居て

此後同止江使附合江に

早の為の所へ、息苦、

色少、其掛去、今年

見物、一、其清、以、

去、初、在、得、十、八、

水、何、も、居、者、居、

八、節、也、也、

水、何、柳、也、名、之、通、

海、岸、十、六、若、石、城、

吉田年見



馮雄並城柳
村園近口柳
村園相換柳

[Faint, illegible handwritten text in the background, possibly bleed-through from the reverse side.]

七月三日日田沙陣左の跡出立陣跡
市振間止沙供附合全沙重括沙乳止
早の為の産の息苦の産成以如産田反
色少の以括去も今年沙市園録永
見物と一十其産以番滞面産成下産
去初の産婦十の去高海岸片見如如
如何も居産産の市土地括も市産
八節市産
如何柳市産の道海岸十の若石城と

Handwritten notes on a green slip of paper, likely a library label or index entry, written in cursive Japanese calligraphy.

鴻雄並城柳
村園近口柳
村園相模柳

Faint handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

七月三日日田沙陣
此後同止沙侯府令
早為南の庭に懸る
色は少くは其掛
見物とて其流
其流に流るる
如何も居る
八節市
如何柳市名は通海

款と防に利ありと所り及よし示し之を
仕るゝあ三人並に場下も少くは多
寺跡打の可くも、西暦より保無
此賢徳く海勝より不承もお廣
兵備は素り平常く食用すらわつ
あ本より復く後ゆえ悲我力名を
困拍止賢家も皆ん
窪田及よ

米の圃に得る朝鮮の征伐を枯削

八所勤切も者くは安於多人救済
と成り程く廣府も此中加増して
信守年々く由り多し主儀も代り
沙貿易も中究とも家居りよあ
壬午年く末言次中表徴移り
所痛むも年々く廣く頃年
多居り三万石く俄に今く
所廣く滞り多し
沙物備止中付打有る人

先國を以て言ふに成るに事なれば故に由
吉連に此の故は是より周旋するを得た都る
教と異る此の事より極の儀より此の場は保
御に由りし難儀にては長別沙合難儀にて
事より沙合の儀にて是より事より之れ計
當時は周旋の事より是より及ぶる事
皆事より是より成る事にて是より事より
之れ儀より沙合の儀にて是より
八節を

事起るに沙合の事より難儀の事なり
之儀より國用より下共相念ふ事なり何れ
沙助力を成下は極の事なり
窪田及ぶる

長別之儀沙平様より事不遂にてお成
お身は得共未だ一丸を以てしては事分
孫沙平様より事達よりお成はりし御儀書
掛より沙合の事より下度然して事書
た在事より是より事より文にては

守及之自長列に実係いりて以て
長く石物もあつて凡そ岩科に屬し
主後五内群造に成るが中々と書述
之可石之満中流に流す下は極
とのと云ふ所半之は石も有るに
存

八節

長別は半掘り所可也と云ふ成り
お連りくお信古と云ふ書物は信可紙換

困えりて是を連りて去るに
沙少の如く下は極有る

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or account, with several lines of text.

Handwritten text, possibly a date or a specific entry.

Handwritten text, possibly a list or account, with several lines of text.

Handwritten text, possibly a date or a specific entry.

Handwritten text, possibly a list or account, with several lines of text.

Handwritten text, possibly a date or a specific entry.

Handwritten text, possibly a date or a specific entry.

Handwritten text, possibly a list or account, with several lines of text.

Handwritten text, possibly a list or account, with several lines of text.

北条國

九月廿三日

九月廿

九月廿

九月廿

九月廿

九月廿

九月廿

九月廿

世多苦

苦者必死

八月

十日

九月

八日
秋味人皆士
試法在蓬去肥先候
修名用中場園文
得身如竹与天
中場園也
候十候計言私
以濟其法
亦更用件
控者渡
前
亦
河
向
東
打
出
進
之
深
急
其
河
水
樹
合
居
居
中
有
之
流
般
熟
志
人
多
外
是
之
長
士
人
而
其
不
濟
也
如
有
通
計
後
之
息
以
事
知
亦
在
也
其
深

冲雨半夜亦好
 去犯先收出溪人松古園沙下為
 家生少引判地古溪之東場
 修牙夜自忘未及十出數合
 只以候重報之方古長社之一
 熟知人平法取之極門意古
 負刻之好方校文於新法
 系行古古之意近古古計之
 方候古述古古古古古古古

分發

仁德海之印



村居近江度
 村居古度
 小居丹下度
 古小意浦古度
 樋口渡古度
 古川采女度

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a short note.

Handwritten text at the bottom of the left page, possibly a date or a reference.

A large block of handwritten text in a cursive script, possibly a letter or a detailed note. The text is written in a fluid, connected style. There is a circular stamp or seal at the bottom of this block.

清月用字

年

Handwritten text in the top right corner of the right page.

Handwritten text in the middle of the right page.

Handwritten notes at the top of the left page, including the characters '中進' and '中進'.

Main body of handwritten text on the left page, written in vertical columns from right to left.

沛國侯之系也力之... 当文急保...
 十... 官有... 交許... 及... 南... 形...
 名... 申... 中... 及... 亦...
 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...
 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

豫... 波... 國... 事... 我... 魚... 一... 亦... 入... 及... 海... 方...
 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

古... 月... 古... 亦...

- 古... 亦...
- 古... 亦...
- 古... 亦...
- 古... 亦...
- 古... 亦...
- 古... 亦...

村岡本換
村岡近江

古川海屋及

古川三斗及

古川末之吉及

古川三月及

古川

十月

古川三斗



村岡近江及
村岡本換及
古川丹下及
古川三浦及
古川秋四郎及
古川宗女及

王侯將相皆無用
惟有布衣與白丁
世間萬物皆有情
惟有黃金與白銀

Robert

清心園記

清心園記
余自居此園以來
見之者皆曰
清心園之名
實非虛也
余曰不然
清心者
心之清也
心清則物清
物清則心清
此清心之理也
余居此園
見之者皆曰
清心園之名
實非虛也
余曰不然
清心者
心之清也
心清則物清
物清則心清
此清心之理也
余居此園
見之者皆曰
清心園之名
實非虛也
余曰不然
清心者
心之清也
心清則物清
物清則心清
此清心之理也

長文書

留狀と信と在定叙朝龍也より於
 上海八分頃叙中觸りて是況を垣徳曹
 系判る事報布被りんこと及び之重泉
 此より大沙返報と信後方沙所寄
 二名より達連二年
 此方報り致合化少内りんこと及び之重泉
 少沙返り言方展行等候後事
 此方報り致合化少内りんこと及び之重泉
 少沙返り言方展行等候後事
 此方報り致合化少内りんこと及び之重泉
 少沙返り言方展行等候後事

此書若くは先年身給... 年以後身給...
年刺... 波... 中... 波... 及... 波... 及... 波... 及...
中... 波... 及... 波... 及... 波... 及...
沙... 波... 及... 波... 及... 波... 及...
一... 波... 及... 波... 及... 波... 及...

此... 波... 及... 波... 及... 波... 及...
此... 波... 及... 波... 及... 波... 及...
此... 波... 及... 波... 及... 波... 及...

卯七月廿六

古川 采女
極口 鉄四郎
古川 善浦 太郎
小川 丹下
村岡 吉換

村岡道江

古川源庵及

古川三針及

古川三針及
古川三針及
古川三針及
古川三針及
古川三針及

十月十日

古川三針



村岡道江及
村岡三針及
小川丹下及
古川三針及
古川三針及
古川三針及
古川三針及

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are faint and difficult to decipher.



Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten title or section header in vertical columns, possibly reading '沙河周志'.

Main body of handwritten text in vertical columns on the left page, appearing to be bleed-through from the reverse side.

Handwritten text in the right margin, possibly a date or reference.

Handwritten text at the top of the page, likely a title or header.

Main body of handwritten text in cursive style, covering most of the page.

書之海に附記を刺して沙區船を
大津使を以て大津波候より南村
波國時我の船を以て沙區船に候
以候より大津波を以て沙區船に候
候候より大津波を以て沙區船に候
沙國使の波候より大津波を以て
り候より大津波を以て沙區船に
候より大津波を以て沙區船に
候より大津波を以て沙區船に
候より大津波を以て沙區船に

書之海に附記を刺して沙區船を

大津使を以て

波國時我の船を以て沙區船に候
以候より大津波を以て沙區船に候
候候より大津波を以て沙區船に候
沙國使の波候より大津波を以て
り候より大津波を以て沙區船に
候より大津波を以て沙區船に
候より大津波を以て沙區船に
候より大津波を以て沙區船に

之柳屋氏

中月三

古川糸女

榎口辰四郎

古川意左衛門

小川丹下

村岡吉兵衛

村岡進江

古川海軍及

古川吉平及

古川清月本古川お重お清お進古川お直お吉

以上

古川

古川五針



村岡進江及

村岡吉兵衛及

小川丹下及

古 荆 蓋 浦 左 所 及
樞 口 鉄 口 所 及
古 川 糸 女 及

古 川 糸 女
樞 口 鉄 口 所 及
古 川 糸 女
古 川 糸 女

古 川 糸 女
樞 口 鉄 口 所 及
古 川 糸 女
古 川 糸 女



